# 東北大学総合情報ネットワークシステム運営委員会広報専門委員会の発足にあたって

電気通信研究所 / 情報科学研究科[1]　鈴木陽一
yoh@riec.tohoku.ac.jp

SuperTAINSの基本的な工事が完了し，東北大学の情報ネットワーク環境も，本格的なマルチメディア時代を迎えることとなりました。この春には，このSuperTAINSニュースに報告がありますように，完成を記念するデモンストレーションが開かれ，1000 人をはるかに越える皆さんにご覧いただくことができました。新しいSuperTAINSが，私たちになにをもたらしてくれるのか，いまひとつイメージがはっきりしなかった部分も，このデモを通して (少なくとも近未来像は) 見えてきたような気がします。

昭和 63 年にTAINS88が構築されたころからだったでしょうか，私は，電子メールを使うようになりました。使ってみますと，電話と違い相手の都合を考えずに連絡ができますし，また自分でも都合の良いときに読み書きができますので，とても便利なものです。自分の研究室以外の人も含めたグループ研究の打ち合せなどは，ほとんどメールになりましたし，近頃では，学会の研究会の案内や参加申し込みなどが電子メールでできるようになってきました。また，別の学会の全国大会は，電子メールでアブストラクトが送れるようになりました。もちろん，このSuperTAINSニュースの編集にも，意見の交換，原稿の受け渡しなど，電子メールを大いに活用しています。更に，最近では WWW(ワールド・ワイド・ウェブ) と呼ばれるシステムが広く使われるようになってきて，文字だけではなく，画像や音なども含めたマルチメディア情報が流通するようになってきました。

TAINS88の完成当時はパソコン 1 台あたり 20 万円近くしたイーサネットボードも今では 1 枚 1 万円という値段となり，TAINS に直接接続しての高速な通信がパソコンでも簡単にできるようになってきました。東北大学の自分の研究室にいて自分のパソコンから使う限りは，このようなネットワーク環境を大いに享受しています。

しかし，学外に一歩でてしまいますと，最も基本的な電子メールの利用ですら学内にいるときの快適さは，まだまだとても得られないというのが実情のようです。先日は，北海道大学から自分のメールを読み書きする機会がありましたが，ネットワークの遅さにいらだちをおぼえました。また，先週はノルウェーで開催された国際学会に参加してきましたが，ここにはインターネット接続の準備がしてあって，参加者が自由に使えるようになっ

[1]東北大学総合情報ネットワークシステム運営委員会広報専門委員会委員長

ていたのです。しかし，私にとっては日本語の使えない環境のため，横目でながめただけでした。一方，私がドイツに滞在していたときには，日本からネットワーク経由で日本語用のプログラムを入手し，これを組込むだけで，自分の研究室と変らず日本語を何不自由なく使うことができていました。

ネットワークの技術は，文字どおり日進月歩で進んでいます。しかし，上のような経験を通して考えることは，トップレベルの技術だけではなく，着実な利用技術の開発と普及が極めて重要であるということです。私たち，東北大学総合情報ネットワークシステム運営委員会広報専門委員会 (TAINS 広報委員会) は， TAINS や，その先につながるインターネットの世界を誰でもが便利に使えるよう，必要な情報を分りやすく伝えて行こうと考えています。このため，このSuperTAINSニュースはもちろんのこと，講習会や，WWW による情報の提供など，多角的な方法で広報に取り組んで行きたいと考えています。どうぞ，これからの私たちの活動にご理解とご協力をお願いいたします。

広報専門委員会メンバー

| | | |
|---|---|---|
| 委員長 | 鈴木 陽一 | 電気通信研究所，助教授 |
| 委員 | 芹澤 英明 | 法学部，助教授 |
| | 曽根 秀昭 | 大型計算機センター，助教授 |
| | 石垣 久四郎 | 附属図書館，助手 |
| | 藤井 章博 | 大型計算機センター，助手 |
| 事務局 | 千葉 実 | 大型計算機センター，技官 |
| | 花岡 勝太郎 | 大型計算機センター，技官 |